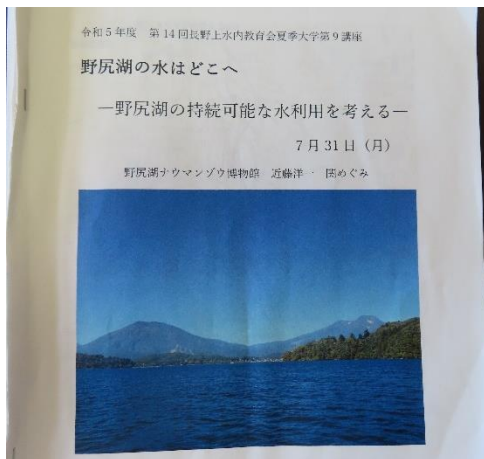


## 校長先生の日記⑩

### 研修に参加しました！

夏休みには、先生方対象の研修がたくさん行われています。普段は忙しくて、なかなか研修にいけない先生方も、夏休みは思う存分学びたい研修に参加することができます。コロナの産物といっているリモート研修も行われており、学校や家で研修を受けられるのも、ありがたいです。



信濃町を象徴する「野尻湖」ですが、この水はいったいどこへ？というテーマの講座に参加しました。ナウマン象博物館の近藤先生の案内で、野尻湖の水が流れ出る瞬間から、最終到達点である新潟県上越市の中江用水まで実際の場所まで行く講座でした。「野尻湖」の水の恵みを受けている「信濃町」は、この行程の中にほとんどなく（たったの50haの田んぼのみ）東北電力の発電と、上越市の田んぼを潤しているという現実には愕然としました。そもそもなぜ「野尻湖」の水利権が新潟県にってしまったのか？というのかははっきりとは分かっていないようですが、残念ながら信濃町にありながら、水は新潟県のものということだそうです。それにつけても、「水」というものにはたくさんの価値があり、水をめぐる争いがなぜ起こるのかということをも改めて学ぶことができました。野尻湖から出た水が管を通過して地中を流れ、各所にあるダムで発電を行い、新潟県の用水を豊かに流れる様子を見ると、この恵みをみんなで仲良く共有できないのかなととても残念に思いました。しかし、信濃小中中学校の子どもたちは、この野尻湖でたくさんの学びを享受し、美しい景色も満喫できているのだから、それは湖のあるこの信濃町の特権だ！思うことで、なんとか気持ちを落ち着けるようにしたいと思います。

同じ日の午後は、俳優「水澤心吾」さんの一人芝居「決断 命のビザ～SENPO 杉原千畝物語～」を観賞しました。第二次世界大戦のなんの理由もなくドイツのヒトラーによって迫害されたユダヤ人に、政府の命令を無視してビザを発行し、6000人もの人々を救ったという杉原さんの生涯を一人で演じる演劇でした。演じているのではなく、杉原さんそのものになっている水澤さんの演技に引き込まれ、あっというまの1時間半でした。「戦争がなければ」と叫ぶシーンは特に心が痛み、また今現在も戦争によって命を落とす現実に思いを馳せずにはいられません。世界中で講演の予定があるとのこと、これを見て「戦争は愚かである」と思う人がさらに増え、戦争反対、戦争終結への気運が高まっていくくれたらなと思いました。

また、「金子みすゞさんの童謡」についても学びました。「朝焼小焼だ 大漁だ 大羽鯛の 大漁だ 浜はまつりのおようだけど 海の中では何万の 鯛のとむらい するだろう」という童謡を読んで、どきっとしました。「まつり」と「とむらい」ついつい一方からしか物を見られない自分の有りようを根底から覆す新しい視点を与えてもらいました。「金子みすゞ」さんはどうしてこんなふうに見えたのだらうと思いました。今自分がみている「黒姫山」を金子みすゞさんはどう見るのだらう？と知りたくなりました。

知らなかったことを知る喜び、見えなかったものが見えるようになる喜び、もっともっと知らなければと心配になる気持ち、焦る気持ち・・・学ぶといろいろな気持ちが湧いてきます。この後のもう一歩が「探究」。残りの夏休みにそんな「探究」に挑戦したいと思います。

信濃小中学校のみなさんにも、そんな「探究」の夏休みがあってくれたらいいなと思いつつ、みなさんの無事を校長室から祈っています。

残りの夏休みも赤い車に気をつけて、充実したお休みになりますように！